HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	巻頭言
Author(s)	芒亭
Citation	各務時報
Issue Date	1930-12-25
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77706
Type	column
Note	出典：各務時報 48号 昭和 5年 12月 25日、各務時報 49号 昭和 6年 1月 25日、各務時報 50号 昭和 6年 2月 28日、各務時報 51号 昭和 6年 3月 20日。
File Information	A008_1936-52S4-S6_Part4.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

第四十八號

岐阜高等農林學校々友會

昭和五年十二月二十五日發行

卷頭言

文化の發展の爲には過去の文化の殘滓が絶えず淸算されて棄却される事が必要である樣に私等の生活にも生活の豐かなる發展の爲には過去の經驗が時折淸算され其或るものは忘却される事が必要である。一年の曆が新らたになつた時人は新鮮なる新らたなる生活が元旦と丶もに始まり其以前の過去の生活は意識的に放棄しやうとする。

だが私等がもつと健忘性であるならば此意識的努力は必要ないのである。山中曆日なしと云ふ悟りぬいた佛者は蓋し徹底した健忘性の人である。忘れがたき怨恨悲痛に苦しむ婆婆の人にはお正月は寔にお芽出度い日であるに相違ないそれは自他共に認めて居る意識の大掃除の日だからである。

一九三一年は今年よりより良い年であるに相違ない諸兄の御祥福を禱る。

（芒　亭）

第四十九號

岐阜高等農林學校々友會

昭和六年一月二十五日發行

卷頭言

三疊の書齋は私の王城である。今宵は江戸時代の俳人の事など思ひひたるにふさはしい晩だ

芭蕉の十人の優れた弟子達の內で丈草と支考とは極めて特異な存在であつた。丈草は犬山の生れ支考はたしか北方あたりの生れである。二人が共に私等が今住んで居る岐阜から遠くない土地の人であつた關係からでも私は屢々此二人を一緒に結びつけて考へる。けれども蕉門十哲の中此二人が各々或る極端な反對の二つの型を示して居た事には誰れも異論あるまい。

支考は一代の才物で論客で畫策家で俳人には珍らしい婆婆氣の多い男であつた。

此に反して、俳句は書き殘し人に讀ます爲に詠むのでないと云つて居た丈草は微塵の婆婆氣もなかつた樣である。禪と俳諧の眞諦を生活の中に體現して居た樣である。

支考が今生きてたら文壇の重鎭となつて居るだらう。丈草が今生きてたら彼はルンペンになつて居るかも知れぬ。

窓の外はひどい吹雪である。

（芒　亭）

第五十號

（記念號）

岐阜高等農林學校々友會

昭和六年二月二十八日發行

卷頭言

特に新卒業生の爲に處世の道七則を呈す

一、自己の內外の素質は初めより素直に露す可し。唯一絶對の價値ある自己の生命を感じ、姑息的に隱蔽し又は僞はりて出す可からず

一、如何なる些細なる職責にも全力を以て爲す可し。

一、上の者にも下の者にも誰れにも同じ樣に適用し得る態度を持す可し。

一、夢にも友を賣る可からず。假令上に捨てられても同輩と自己に見捨てられる可からず

一、大事にあたりては自己と家と社會との歷史を明かに想ひ浮べ恥かしくない態度をとる可し。

一、自己の矜りは身命を賭しても守る可し。

一、高尙なる趣味を持ち自己をいたわつてやれ又絶えず生活の記錄を誌し自己をはげましてやれ。

（芒　亭）

第五十一號

岐阜高等農林學校々友會

昭和六年三月二十日發行

卷頭言

「君はもう死んだのか。」

「さうです。あなたの矢に射られて死んだのです。私はあなたをうらんで居ます。罪を犯したのは私一人ぢやないのにあなたは私一人をその爲に射殺したのです。」

「僕は君を射る積りぢやなかつたのだ。僕は惡魔に組する者供の中に群集めがけて射つたのだそれが君にあたつたのだ。世界を暗くする惡濁の群はどんなに惡んでも足りない。だが君にはほんとに濟まないと思ふよ。」

「あなたにもそれ丈の情があるのですか。」

「一人一人には濟まないと思ふよ。」

「空漠たる人類世界とか社會とかの名辭にとらはれて個人を苦しめる事は一つの自己僞瞞か殘忍としか私には思へません。ほんとにあなたに愛があるなら漠然とした大衆ではなく確實に個々の人を愛す可きだと思ひます。」

「さうだ。僕が人間だつたらさうするよ。」

「ではあなたは何です。」

「僕か。僕は運命と云ふ獸だ。」

（芒　亭）